

# 村野藤吾記念会

Togo Murano Committee

## ●第27回村野藤吾賞選考経過

第27回村野藤吾賞選考委員会は2014年3月4日、日本建築学会会議室を会場として、谷口吉生、亀井忠夫、木下庸子、小嶋一浩、松隈洋の5氏の選考委員全員の出席により開催された。

今回の選考対象は、村野藤吾記念会会員より推薦のあった以下の15作品であった。(設計者 | 推薦作品(所在地、竣工年))

新居千秋 | 由利本荘市文化交流館 カダーレ (秋田県由利本荘市、2011年)、千葉学 | 工学院大学125周年記念総合教育棟 (東京都八王子市、2012年)、遠藤秀平 | 淡路人形座 Looptecture A (兵庫県南あわじ市、2012年)、古谷誠章 | 実践学園中学・高等学校自由学習館 (東京都中野区、2011年)、平川徹 | 武蔵野の家 (東京都、2010年)、堀場弘 | 金沢海みらい図書館 (石川県金沢市、2011年)、堀越英嗣 | 正願寺 (愛知県豊川市、2012年)、見城辰哉 | 清水建設本社 (東京都中央区、2012年)、木村博昭 | 京都工芸繊維大学60周年記念館 (京都府京都市左京区、2011年)、永山祐子 | 豊島横尾館 (香川県小豆郡土庄町、2013年)、齋藤裕 | 霞山荘 (京都府、2013年)、SANAA | ルーヴル・ランス (Lens, France、2012年)、白波瀬智幸 | 大阪木材仲買会館 (大阪府大阪市西区、2013年)、手塚貴晴 | 茅ヶ崎シオン・キリスト教会・聖鳩幼稚園 (神奈川県茅ヶ崎市、2013年)、堀部安嗣 | 竹林寺納骨堂 (高知県高知市、2013年) (登録番号順)。

選考委員会ではまず、クライテリアの確認が行われた。選考基準として、「日本建築界に大きな感銘を与えたすぐれた建築作品の設計者ひとりに贈る賞」と規定されていること。選考対象は、推薦締め切りの2013年9月末から起算して過去3年以内に完成した建築作品の設計者で、村野藤吾記念会会員もしくは選考委員の推薦によるものであること。過去の受賞歴および独立した建築家であるか組織に属する建築家であるか、自薦他薦の別を問わないことが確認された。

その後、応募添付資料や作品掲載誌を選考委員各自で閲覧し、選考のための議論の対象とすべき作品をひとり3作品を挙げる投票が行われた。

投票の結果、「工学院大学125周年記念総合教育棟」、「実践学園中学・高等学校自由学習館」、「金沢海みらい図書館」、「清水建設本社」、「ルーヴル・ランス」、「茅ヶ崎シオン・キリスト教会・聖鳩幼稚園」、「竹林寺納骨堂」の7作品が挙げられ、各選考委員は自らが挙げた作品について所見を述べた。

議論の中では、受賞対象を設計者ひとりとする選考基準についての意見が交わされ、設計者をひとりとすることを村野藤吾賞の大きな特徴として尊重することが了解された。同時に、現代において設計者をひとりに限定することが難しいこと、また、作品に設計者の手の跡が表れていることが重要ではないかとの意見が表明された。

審査は、「工学院大学125周年記念総合教育棟」と「竹林寺納骨堂」に絞られたが、議論が尽くされたため、この2作品を対象として投票を行った。その結果、「工学院大学125周年記念総合教育棟」を推す選考委員が多数となり、設計者である千葉学氏を第27回村野藤吾賞に推すことを決定した。

「工学院大学125周年記念総合教育棟」は、教室、研究室のほか、カフェテリア、学生ホール、大学事務室など、多様な機能を有する大学キャンパスの中心施設である。4つのL型のブロックをパサージュを介して寄り添わせる構成によって、向き合うブロックの室同士やパサージュに適度な距離感を保ちながら視線が行き交う関係をつくり出し、同時に外周部にはそれぞれに性格の異なる広場を生み出している。その上質なアーバンデザインと、そこに生み出された空間の質が建築界に感銘を与えるものとして高く評価された。